HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	これからも御教示を
著者	安武，秀岳
引用	北海学園大学人文論集，36：9-10
発行日	2007-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

これからも御教示を

安　武　秀　岳

北海学園大学での生活で最も有り難かったのは，自由に勉強できたことでした。前任校の最後の2年間，柄にもなく大学院研究科長という役職を引き受けて博士課程設置に立ち会い，右往左往の日々を送り続けた直後だっただけに，研究者にとって精神的余裕と自由な時間がいかに重要であるかを実感しました。その上本学では，年令による精神的・肉体的体力の衰えに配慮して，大学の管理業務を軽減していただいたことも助かりました。国公私立を問わず，大学教授の本務は研究・教育なのか，多忙な入試労働を含めての経営管理業務なのかが問われている近年の状況を思う時，これはほんとに感謝すべきことだと思います。

いま一つこの大学で，私が全く予期していなかった恩恵にあずかりました。それは本学人文学部の紀要原稿に制限枚数がないことでした。地方の多くの国公立大学では，人文系学部の紀要論文の枚数制限が厳しく，これが研究者の視野を狭めて来たのではないかということに最近やっと気づきました。確かに原稿枚数制限は私にとって，多少とも文章の簡素化の訓練に役立って来たと，実感してきました。学生にもそのようなことを言って来たと思います。

しかしこの制限は，私だけでなく多くの若い研究者にとって，細分化した研究領域の中での個々の論文の断片化，自己閉塞化を助長してきたのではないかと思うようになりました。常に自分の研究全体を顧みて，多様な分野の研究動向の中での自分の研究の位置を確かめながら研究・叙述し，広く公衆に自己の研究成果を提示するという精神を弱めることになって来たと思います。

今回は最後の紀要論文ですから，私の過去の研究を総括するつもりで，冗長になるのも恐れずに，憲法史，政治史，政治文化史，経済史，社会史等々の諸問題に言及する長大論文にまとめました。良くも悪くも自分が何をしてきたかを確認し，自己表現したつもりです。まだ少しは勉強し，この世の中についての理解を深めたいと思っています。諸賢の忌憚のない御批判や御教示をお願いします。

（脱稿，2007 年 1 月 31 日）